



NEWSLETTER No.42

Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2006.1.16

Reports

第23回有機地球化学シンポジウム（2005年高知シンポジウム） 開催される

第23回有機地球化学シンポジウム（2005年高知シンポジウム）は2005年7月27～29日にかけて高知大学物部キャンパス内海洋コア総合研究センターおよび国民宿舎桂浜荘にて開催されました。参加者総数は64名、講演件数は43件（口頭発表23件、ポスター発表20件）に及びました。シンポジウムではIODPのコアレポジトリ機能をも有するコアセンターの施設・設備の見学、スペシャルセッション（有機分子レベルの安定・放射性同位体を用いた環境解析法の現状とIODP時代における応用戦略）も行われ、特色のあるシンポジウムが開催されました。世話人をしていただいた池原実代表ほか高知大学の方々にあらためて御礼を申し上げます。



2005年7月28日 高知大学海洋コア総合研究センター前にて



会場風景



懇親会風景

第5回(2005年度)有機地球化学会研究奨励賞(田口賞)受賞者 決まる

第5回有機地球化学会研究奨励賞(田口賞)は選考委員会で審議された後、7月27日に行われた運営委員会において、奥田知明会員および山下洋平会員に与えられることが決まった。同日の総会において、福島会長より同賞が授与された。

研究奨励賞(田口賞)第7号

奥田 知明 会員

受賞題目:「多環芳香族炭化水素類の分子レベル安定同位体比測定地球化学的应用に関する研究」



奥田知明会員は、多環芳香族炭化水素類(PAHs)の分子レベル安定炭素同位体比分析法の開発に従事し、方法を確立するとともに、環境試料に適用し顕著な成果をおさめた。環境中のPAHsの起源を明らかにするために、種々の燃焼起源から発生するPAHsの同位体的特徴、同一試料中の分子間で

の同位体比のばらつき、環境中への放出後の同位体比の変化、等の検討を行った。その結果、自動車排出粒子由来のPAHsについては、同位体パターンを比較することにより他の起源と区別できることを明らかにした。ついで、同会員はマレーシアエアロゾル、中国エアロゾル、日本エアロゾルおよび日本湖沼堆積物をケーススタディとして現世環境試料中のPAHsの同位体的特徴や起源推定法について多くの知見を得た。最近では、日本および中国における大気粉塵中の多環芳香族炭化水素類と微量金属の同時観測に取り組み、有機・無機地球化学を結びつける研究領域を開拓しつつある。

(研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会)

研究奨励賞(田口賞)第8号

山下 洋平 会員

受賞題目:「海洋における溶存有機物の化学形と動態に関する研究」

山下洋平会員は、まず溶存有機物の中でアミノ酸含有有機物に関してその分布および存在状態の研究を行った。その結果、溶存アミノ酸は微生物分解に伴い組成が変化することを観測結果から明らか



にした。また、芳香族アミノ酸の蛍光特性から、溶存有機物高分子画分のアミノ酸含有有機物の化学形は深度により異なり、表層では長鎖ペプチドが、深層では短鎖ペプチドが多い事を見いだした。深層

水中において、短鎖ペプチドは相互作用することにより高分子化し、微生物分解から免れている可能性を示した。ついで、同会員は陸上腐植物質と近似する発蛍光団を有する物質が溶存有機物の大部分を占める化学的未同定成分を代表するとの仮説のもとに、海水中の腐植様蛍光物質の研究を行った。その結果、腐植様発蛍光団を有する物質が海洋内部において比較的短時間で生成すること、河川水由来の陸上腐植物質流入が大きい沿岸域においても自生性腐植様物質の影響が大きいこと、等を明らかにした。

(研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会)

2005年度 第4回日本有機地球化学会運営委員会報告

日時：2005年7月27日(水) 16:00~19:00

場所：高知大学 海洋コア総合研究センター
二階 会議室

出席者：(会長) 福島和夫、(副会長) 武田信従
(運営委員) 荻原成騎、奥井明彦、金子信行、三瓶良和、鈴木徳行、田上英一郎、奈良岡浩、村江達士、山本正伸、(事務局) 沢田健

<議長-福島会長 書記-河野和子>

議事 1. 2004年度事業・会計報告

2004年度事業・会計報告(資料1)について、総会に提出することを承認した。

議事 2. 2005年度事業・会計中間報告

2005年度事業・会計中間報告および今後の計画(資料2)について、総会に提出することを承認した。

議事 3. 研究奨励賞(田口賞)、有機地球化学賞(学術賞) 選考結果の報告と承認

研究奨励賞(田口賞)について田上英一郎委員長より、有機地球化学賞(学術賞)について武田信従委員長より選考結果報告があり、それぞれ以下のように承認された。

- 研究奨励賞(田口賞)について田上選考委員長より説明があり、本年度は奥田知明会員、山下洋平会員が受賞者となることを承認。受賞題目は資料5のとおり。有機地球化学賞(学術賞)について武田選考委員長より説明

があり、今年度は推薦無しで不選出とすることを承認。

- 有機地球化学賞(学術賞)、研究奨励賞(田口賞)について、推薦のない場合には選考委員会が推薦することが可能であることを確認した。
- 運営委員会での承認を前提として会長より前もって受賞を伝えておくことを確認、受賞記念講演の実施についても今後検討することとした。

議事 4. 2006年度の事業・会計計画

2006年度事業・会計計画(資料3)と以下の事業計画を総会に提出することとした。

- 第24回有機地球化学シンポジウム(2006年)を信州大学(代表世話人 福島和夫会長)で開催する。
- ROGの編集・出版について、奈良岡浩委員長より報告があった。
*20号(6編予定)製作に関して、印刷所からの見積額が昨年より約18%の値上げとなった。表紙がカラーになるとさらに50000円の増額となる。
*一般論文が減少し、技術論文が増加している。今後のROGをどのように発展させていくか検討が必要。
*21号へ技術論文の投稿がすでに2編あるが、20号の発行を遅らせて8編としての発行も検討している。
- 30周年記念事業について、地球・環境有機分子検索マニュアル作成WGの山本正伸委員長より活動の経緯について報告があった。(資料6)

- ROG 表紙刷新については、応募作品のなかで複数票を獲得した二作品について ROG 印刷見積の結果をみてから、改めてどちらにするか検討することとした。
- ROG の転載許可について、三瓶委員より報告と提案があり、著作権に関する基本理念や転載許可申請書様式等についてまずは ROG 編集委員会で検討することとした。(資料地質学雑誌 転載・著作権について <http://www.geosociety.jp/journal/copyright.html> 日本物理学会 著作権と転載許可等 <http://www.soc.nii.ac.jp/jps/jps/pub/chosakuken.html>)

議事 5. 事務局の移転

事務局移転について、業務内容(資料 7)を

分散することを前提として、会長から新体制についてご提案いただき、運営委員会において話し合っ決定することとした。

議事 6. 各役員・委員の改選について

会長、副会長はじめすべての役員・委員は基本的に留任することとした。ただし、交代については希望・状況に応じて臨機応変に対応していくこととする。

議事 7. ポスター賞の開設について

学生のポスターを審査対象としたポスター賞の開設について提案があった。次回シンポジウムより実施予定。

議事 8. 会員の現況

会員の現況について、資料 4 のとおりであることが報告された。

2005 年度総会記事

日時:2005 年 7 月 28 日 17:00~18:00
場所:高知大学 海洋コア総合研究センター

開催に先立ち福島会長より挨拶があった。議長には三瓶良和と委員が満場一致で選出された。総会では以下の事項が審議、承認された。

議事

- 2004 年度事業・会計報告(資料 1)
- 2005 年度事業・会計中間報告および今後の計画(資料 2)
- 会員の現況の報告と退会会員について(資料 4)
- 2006 年度事業・会計報告(資料 3)
- 事務局の移転について(資料 7)
- 各役員・委員の改選について
- ポスター賞の開設について

報告

- 2006 年度有機地球化学シンポジウムは信州大学(代表世話人 福島和夫会長)にて開催
- 研究奨励賞(田口賞)は奥田知明会員、山下洋平会員が受賞、研究題目は資料 5 のとおり。

会計報告

(一般会計)

収入の部(円)

| | |
|--------|---------|
| 前年度繰越金 | 937,681 |
| 賛助会費 | 120,000 |
| 個人会費 | 281,000 |
| ROG 収入 | 2,240 |
| 利子 | 26 |

支出の部(円)

| | |
|--------------|---------|
| ROG 製作 | 240,975 |
| ROG 郵送・発送謝金 | 11,020 |
| 送料 | 14,120 |
| HP オンライン化維持費 | 61,530 |
| 雑費 | 2,640 |
| 事務局経費 | 30,000 |

総会終了後に授賞式が行われた。

- 有機地球化学賞(学術賞)は推薦無しで不出。

資料 1

1. 事業・会計報告および計画
 - (1) 2004 年度事業・会計報告(2004 年 1 月 1 日~2004 年 12 月 31 日)

事業報告

ニューズレター No.39 (2004.6.14), No.40 (2005.1.15) 発行
ROG Vol. 19 発行(2004.12)
ROG 編集委員会
田口賞受賞候補者選考委員会(2004.8.4; 於大妻女子大)
学術賞受賞候補者選考委員会(2004.8.4; 於大妻女子大)
運営委員会(2004.8.4; 於大妻女子大)
総会(2004.8.5; 於大妻女子大)
第 22 回有機地球化学シンポジウム(2004.8.5~8.6; 於大妻女子大)
30 周年記念事業(地球・環境有機分子検索マニュアル作成)WG
ROG 表紙の募集
ホームページの更新

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 手数料 | 917 |
| | | 学術賞関連 (※) | 27,712 |
| | | 次年度繰越金 | 952,033 |
| 計 | 1,340,947 | 計 | 1,340,947 |
| 〈田口基金〉 | | | |
| 収入の部 (円) | | 支出の部 (円) | |
| 前年度繰越金 | 1,974,666 | 副賞 (学術賞) | 8,190 |
| 学術賞関連 (※) | 27,712 | 次年度繰越金 | 1,994,195 |
| 利子 | 7 | 計 | 2,002,385 |
| 計 | 2,002,385 | | |

(※) 一般会計から支払われるべき学術賞関連の支出が田口基金から支払われていたため、会計を適正なものにするために 2000-2004 年の間に支払われた 27,712 円を一般会計から田口基金へ移動した。

会計監査報告

有機地球化学会および田口基金の 2004 年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領書、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められましたので、ここに報告致します。

平成 17 年 7 月 7 日

監事 山本 修一 (印)

ROG 編集委員会

田口賞受賞候補者選考委員会 (2005; 於高知大)
 学術賞受賞候補者選考委員会 (2005; 於高知大)
 運営委員会 (2005.7.27; 於高知大)
 総会 (2005.7.28; 於高知大)
 第 23 回有機地球化学シンポジウム (2005.7.28~7.29; 於高知大)
 学術会議広報協力学術団体への登録ホームページの更新
 日本科学技術図書館へ ROG の郵送

資料 2

(2) 2005 年度事業・会計中間報告および今後の計画

事業中間報告 (2005 年 1 月 1 日~2005 年 7 月 26 日)

ニューズレター No.41 発行 (2005.6.14)
 30 周年記念事業 (地球・環境有機分子検索マニュアル作成) WG

今後の計画 (2005 年 7 月 27 日~2005 年 12 月 31 日)

ROG Vol. 20 発行
 ニューズレター No.42 発行
 事務局移転
 ROG 表紙の改訂

一般会計中間報告 (2005 年 1 月 1 日~2005 年 7 月 26 日)

| | | | |
|---------------|-----------|--------------|-----------|
| 〈一般会計〉 | | | |
| 収入の部 | | 支出の部 | |
| 前年度繰越金 | 952,033 | 送料 | 20,980 |
| 賛助会費 | 20,000 | 雑費 | 2,588 |
| 個人会費 | 142,000 | HP オンライン化維持費 | 61,530 |
| ROG 販売 (送料込み) | 2,240 | 手数料 | 472 |
| 利子 | 25 | 残高 | 1,030,728 |
| 計 | 1,116,298 | 計 | 1,116,298 |

今後の一般会計計画 (2005 年 7 月 27 日~2005 年 12 月 31 日)

| | | | |
|----------|-----------|----------|---------|
| 〈一般会計〉 | | | |
| 収入の部 (円) | | 支出の部 (円) | |
| 上半期繰越金 | 1,030,728 | 送料 | 15,000 |
| 賛助会費 | 120,000 | 事務局経費 | 30,000 |
| 個人会費 | 135,000 | 雑費 | 1,000 |
| 利子他 | 1 | ROG 製作 | 270,000 |

| | | | |
|--------|-----------|---------|-----------|
| | | 次年度繰越金 | 969,729 |
| 計 | 1,285,729 | 計 | 1,285,729 |
| 〈田口基金〉 | | | |
| 収入の部 | | 支出の部 | |
| 前年度繰越金 | 1,994,195 | 田口賞(副賞) | 100,000 |
| 利子 | 7 | 次年度繰越金 | 1,894,202 |
| 計 | 1,994,202 | 計 | 1,994,202 |

資料3

3. 2006年度事業および会計について
(2) 2006年度事業・会計計画(2006年1月1日～2006年12月31日)

事業計画

ROG Vol. 21 発行
ROG 編集委員会

田口賞受賞候補者選考委員会
学術賞受賞候補者選考委員会
運営委員会
第24回有機地球化学シンポジウム
総会
ニューズレターNo.43,44 発行
地球・環境有機分子検索マニュアル作成 WG
ホームページの更新

会計計画

| | | | |
|---------|-----------|--------------|-----------|
| 〈一般会計〉 | | | |
| 収入の部(円) | | 支出の部(円) | |
| 前年度繰越金 | 969,729 | ROG 製作 | 270,000 |
| 賛助会費 | 140,000 | 送料 | 30,000 |
| 個人会費 | 225,000 | 事務局経費 | 30,000 |
| ROG 収入 | 2,000 | HP オンライン化維持費 | 62,000 |
| 利子他 | 30 | 雑費 | 5,000 |
| | | 次年度繰越金 | 939,759 |
| 計 | 1,336,759 | 計 | 1,336,759 |

資料4

会員現況

入会(2004.8.1～2005.7.26)
(学生会員) 野末泰宏, 真木祐典, 松中哲也, 上田広和, 長岡智晶, 伊藤明日香, 野中さやか, Tareq Mohammad Shafi, 三橋 順, 岡野和貴
(一般会員) 高野淑識, Shim Won Jodn, 力石嘉人, 山下洋平, 坂口隆昭
(賛助会員) ジャスコインタナショナル株式会社
退会(2004.8.1～2005.7.26)
(一般会員) 高山邦明, 中嶋 悟, ナリン・ラトナヤケ
(学生会員) 荒井高明
登録抹消(2004.8.1～2005.7.26)
(一般会員) 島 誠, 米谷盛寿郎, 門谷 茂, 松田あゆり(以上, 会費長期未納のため)

現在の会員数は151名(一般会員118名, 学生会員28名, 賛助会員5社)

資料5

日本有機地球化学会長
福島和夫 殿

2005年6月10日

日本有機地球化学会研究奨励賞(田口賞)
選考委員会 委員長 田上英一郎

日本有機地球化学会研究奨励賞(田口賞)
候補者答申

2005年度日本有機地球化学会研究奨励賞(田口賞)について、学会公示にありますように2005年5月末日をもって締め切りました。締め切り期日までに二名の推薦がありました。その後、選考委員会で鋭意選考を重ねた結果、下記二名はいずれも、受賞者選考規定を満たしており、かつ、標記候補者として適切であるとの結論に至りましたので答申致します。

記

奥田 知明 候補者
学位: 博士(農学)
所属: 慶應義塾大学理工学部応用化学科
現職: 慶應義塾大学助手
研究題目: 多環芳香族炭化水素類の分子レベル安定同位体比測定の地球化学的応用

山下 洋平 候補者
学位：博士（理学）
所属：名古屋大学大学院環境学研究科
現職：日本学術振興会特別研究員
研究題目：海洋における溶存有機物の化学形と動態に関する研究

以上

資料6

マニュアル作成WGレポート

有機地球化学会 30 周年記念事業として「地球・環境有機分子検索マニュアル」の作成を提案する。

- 1) 名称:地球・環境有機分子検索マニュアル
- 2) 目的:これまで研究室や個人単位で集積されてきた有機分子同定データを出版することにより、有機地球化学研究者および関連分野の研究活動の効率化および推進に寄与する。
- 3) カバーする分析データ:GC/MS のクロマトグラムと質量スペクトルを主体とするが、LC/MS 他の機器のデータも随時カバーする。
- 4) 対象有機分子:堆積物・堆積岩・化石燃料中の有機分子を主体とするが、生物中など他の関連物質も随時カバーする。
- 5) 記述の形態:マニュアルタイプ(近藤さん、山本修一さんの論文の形式)を基本とするが、データ集タイプ(Philp の質量スペクトル集)も認める
- 6) 実施方法:2段階方式をとる。

第一段階(2004 年から数年間)

- 7) 出版形態:ROG通常号の技術論文として2004 年から数年間、毎年出版する。
- 8) 言語:日本語
- 9) 執筆者:マニュアル作成WGで化合物群ごとに執筆者を検討し、依頼する。執筆はWGが指定する執筆要項に従い行う。
- 10) 印刷費:ROG1号あたり40 万円。
- 11) 配布価格:会員に無料配布。
- 12) 成果物の評価:ROG誌の技術論文として評価される。
- 13) 原稿締め切り:(第1回目)今年度内

第二段階(数年後)

- 14) 第一段階の進行状況を見て、実現可能性を判断したのち、実施する。
- 15) 第一段階で収録されたデータに、データを補充して単行本として出版する。
- 16) 言語:英語
- 17) 執筆者:マニュアル作成WGで執筆者を検討し、依頼する。
- 18) 査読謝礼・編集費・印刷費:未定、原稿が揃っていれば科研費の出版補助(平均200 万円)を申請できる。
- 19) 配布価格:有料

- 20) 成果物の評価:有機地球化学会(編)、監修者数名(監修)、データ提供者(著者)。

2005 年 7 月 27 日
マニュアル作成WG(2004 年8月~2005 年7月)活動状況

2004 年

- 8月 運営委員会にレポート(資料)を提出。2段階方式、第一段階はROG 技術論文という基本路線が承認された
- 9月 運営委員会にROG 技術論文雛形(マニュアル1号, 2号)を提出。
- 10月 マニュアル1号~3号を ROG19 号に投稿。山本修一と山本正伸が ROG 編集委員(技術論文担当)として編集に関与。
- 12月 ROG19 号出版

2005年

- 1月 ROG 技術論文の投稿希望受付
- 2月 投稿希望受付締め切り。7名による希望を受け付けた。
- 3月 10名の方に執筆を依頼し、7名の方から快諾を得た。
- 4月 技術論文4編が ROG20 号に投稿され、査読に回った。
- 6月 技術論文2編が ROG に投稿された。
- 7月現在 4月投稿の4編(ROG-0502~05)のうち、1編が受理直前(図表の小改訂のみ)、3編が査読終了後著者による改訂中。6月投稿の2編(ROG-07, 08)は査読中。

今後の予定

8月中旬に ROG-0502~05 の編集終了。ROG20 号出版?

執筆者の新規依頼(ROG22 号にむけて)。

9月末 少なくとも3編の論文の投稿が予定

10月 査読

12月 ROG21 号出版

* 年内に ROG21 号を出版する場合には、2号分の出版費が必要。

* 第2段階マニュアル(冊子, CD)編集委員会を新たに立ち上げる。

マニュアル作成WG(山本正伸, 福島和夫, 石渡良志, 山本修一, 近藤寛, 有信哲哉)

資料7

事務局について

1. 事務局長
2. 会計(予算を扱う)
3. 事業(シンポ世話人との打ち合わせ, NL・ROG の発送, HP 運営, 学会賞関係, 記念事業)
4. 会員管理
5. シンポジウム世話人

1. 事務局長

- 1-1 渉外・広報
外部との交渉(賛助会員の勧誘など)
各種公文書発行
- 1-2 学会運営に関わる全般
2. 会計
- 2-1 年会費徴収(正会員・学生会員)
NL春号に払込票を同封・号末に会費納入
入お願い
シンポジウム会場にて納入のお願い
NL秋号号末に会費納入お願い
新入会会員・未納の会員に会費納入の連
絡
学会郵便口座・振込口座の管理
- 2-2 年会費徴収(賛助会員)
毎年 11 月頃, 請求書・見積書・納品書を
各担当者へ郵送
入金を確認後領収書の郵送
学会銀行口座の管理
- 2-3 会計報告
総会で前年度会計報告・今年度中間報
告・次年度会計予定報告
年度末に監査へ会計報告提出
- 2-4 ROG の販売
請求書の郵送, 入金の確認(学会銀行口
座)後, 領収書の郵送(JOGMEC)
印刷業者への支払い(郵便口座より)
アルバイト代・郵送料の支払い(第4種郵便
物は特定郵便局でのみ郵送可能)
- 2-5 学会賞関係
学術賞は学会口座から
田口賞は田口基金口座から支出する
田口基金郵便口座の管理
- 2-6 その他支出の管理
ファイル・プリンタラベル・NL用紙・領収
書・印鑑・封筒等
事務局経費
3. 事業
- 3-1 シンポジウム開催まで
世話人・運営委員とともに日程の決定
会員MLへファーストサーキュラーの送信
運営委員会議事次第・資料の作成
- 3-2 シンポジウム当日
運営委員会・総会での書記, 写真撮影
- 3-3 シンポジウム終了後
運営委員会・総会議事録作成
- 3-4 NL
春号 内容はシンポジウムファーストサーキ
ュラー ほか, 全会員に郵送
秋号 内容は総会議事録と資料 シンポジ
ウム報告 学術賞田口賞の推薦募
集 ROG 原稿募集 ほか, 会員ML
利用, メールアドレスを登録していな
い会員には郵送
- 3-5 ROG
封筒の準備(学術刊行物として郵送する場
合には, 3分の1くらい口を開ける必要があ
るため)
- 宛名をラベル印刷, 編集委員へ封筒ととも
に郵送
- 3-6 ホームページ(学会ホームページ)
ニュース, 委員の改選, ROG・NL の発行な
ど新しいことがあるたびに更新
各種 ML の管理
- 3-7 ホームページ(シンポジウムホームページ)
シンポジウムHP, 講演申込HPの作成・管
理
参加者MLの作成・管理
世話人へ参加者情報の提供
- 3-8 学会賞関連
学術賞は賞状・メダルの準備
田口賞は賞状・賞金の準備
4. 会員管理
- 4-1 新入会・登録内容の変更
新入会の場合は運営委員の承認, 年会費
納入確認後, 登録・変更内容を名簿に記
載, MLに登録
- 4-2 退会・登録抹消
本人から申し出があった場合は事務局判
断で処理(運営委員には報告しない)
長期会費未納者についての扱いは以下の
とおり。
1. 未納が2年を超えた場合
年度初め(NL春号)に未納の旨連絡
し, 一ヶ月以内に支払のない場合, R
OGを送付しない
 2. 未納が3年を超えた場合
年度初め(NL春号)に未納の旨連絡
し, 一ヶ月以内に支払いのない場合,
ROG, NLを送付しない。ただし, メー
リングリストにアドレスが登録されている
会員には秋号のみメールで送付する
 3. 未納が4年を超えた場合
長期未納を本人に連絡, 年度内に支
払のない場合は次の年から登録抹消
とする
5. シンポジウム世話人
- 5-1 シンポジウム開催まで
前回事務人より物品・会計の引き継ぎ
日程の決定
会場・宿泊の確保
ファーストサーキュラー原稿作成
参加者名簿の管理(名簿はホームペー
ジよりダウンロード)
プログラムの作成
要旨集の作成
懇親会会場の手配
会場設営
- 5-2 シンポジウム当日
参加費の徴収
シンポジウム運営
写真撮影
- 5-3 シンポジウム終了後
各種支払い

ファイナルサーキュラー原稿作成
次回世話人へ物品・会計の引き継ぎ
(会計に関しては報告・監査の義務なし)

2006 年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。事務局から 2006 年の年会費の納入についてご協力をお願いいたします。年会費は一般会員 2000 円学生会員 1000 円となっております。本学会郵便口座までお払い込みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度がわからない等ご不明の点がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局までお問い合わせください

い。また、職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。また、E-mail アドレスをお持ちの方は、ニュースレターのメール配信等のため、差し支えない限り E-mail アドレスを事務局までお知らせいただくようお願いいたします。

事務局の移転のお知らせ

2006 年度より事務局が東京大学へ移転します。新しい連絡先は下記のとおりです。

事務局長 荻原 成騎
事務局長補佐 奥井 明彦
情報担当 鈴木 祐一郎
財務担当 金子 信行

〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科地球惑星 1 号館
電話 03-5841-4524 fax 03-5841-4555

Information

有機地球化学賞(学術賞)2006 年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞(学術賞)2006 年度受賞候補
選考委員会 委員長 武田 信従

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を受け付けます。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格: 有機地球化学分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法: 本会会員の推薦による(自薦他薦を問いません)。

推薦の方法: 下記の事項について A4 サイズの用紙に任意の型式で記入する事。

1) 候補者の履歴書(学歴, 大学卒から。職歴, その他)

2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
3) 研究業績目録(推薦の対象となる主要な論文 10 編)

4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日: 2006 年 5 月 31 日(水)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先:

〒261-0025 千葉市美浜区浜田 1-2-1

石油資源開発(株)技術研究所

武田信従

電話: 043-275-9311, ファクシミリ: 043-275-9316

E-mail: nobu@japex.co.jp

以上

「研究奨励賞(田口賞)および有機地球化学賞(学術賞)の過去の受賞者についての情報は、日本有

研究奨励賞(田口賞)2006年度受賞候補者の募集

研究奨励賞(田口賞)2006年度受賞候補
選考委員会 委員長 田上 英一郎

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格: 生年月日が1972年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法: 本会会員の推薦による。自薦他薦は問いません。

推薦の方法: 下記の事項をA4サイズ of 用紙に記入し、書留で郵送する事。記入の様式は自由。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷り又はコピー
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日: 2006年5月31日(水)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先: 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

田上英一郎

電話: 052-789-3472 ファックス: 052-789-3436

E-mail: tanoue@nagoya-u.jp

これまでの受賞者と研究題目

2005年度

奥田知明「多環芳香族炭化水素類の分子レベル安定同位体比測定の地球化学的応用に関する研究」
山下洋平「海洋における溶存有機物の化学形と動態に関する研究」

2002年度

山中寿朗「島弧一背弧系海底熱水活動域における熱水性石油の研究」

2001年度

松本公平「ステロール炭素安定同位体比測定と地球化学への応用」

早川和秀「沈降粒子中の脂肪酸を指標としたプランクトンブルームの評価」

1998年度

古宮正利「連続昇温加熱による南極炭素質隕石中の不溶性有機物分解とその組成の解明」

1997年度

山田桂太「個別炭化水素の安定炭素同位体組成による有機地球化学的研究」

山本正伸「アザーレン組成に基づく石油移動の有機地球化学的研究」

ROG への投稿原稿を募集中！！

Researches in Organic Geochemistry

編集委員長 奈良岡 浩

ROG (Researches in Organic Geochemistry) は本学会の学会誌で有機地球化学に関連する論文を掲載し、今年で表紙も新たに Vol. 20 を迎えました。

1) 論文 (articles)、2) 短報 (notes)、3) レター (letters)、4) 技術論文 (technical papers)、5) 総説 (reviews) からなり、学会会員の皆様に興味をもって読んでいただけるような出版物にしていきたいと思っています。学会創立 30 周年を記念して始めら

れた「地球・環境有機分子検索マニュアル」も No.9 を数え、皆様の研究のお役に立つと思います。

現在、Vol. 21 へ向けて原稿を募集中です。5 月末をめどに ROG にぜひ投稿して下さい。最新結果から総説まで幅広く募集中です。博士論文や修士論文の一部の発表も歓迎いたします。PDF ファイルによる電子投稿も受け付けており、迅速に査読を進めてまいります。論文受理には速やかに受理証明を発行いたします。

ROG 投稿規定は Vol.19、あるいは 12 月に発行の Vol. 20 の巻末をご覧ください。また、ROG での論

文の企画、アイデアも募集しておりますので、編集委員までお知らせ下さい。皆さんの投稿をお待ちしております。

編集後記：臨時的措置で編集を1年継続することになりました。前もって編集準備ができなかったため、若手研究者紹介のコーナーPeopleは今回お休みしました。皆様の寄稿をお待ちしております。

発行責任者 有機地球化学会会長 福島 和夫

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物質循環学科

Phone: 0263-37-2502, Fax: 0263-37-2560

日本有機地球化学会事務局（2006年1月1日より移転しました）

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学 大学院 理学系研究科 地球惑星1号館

Phone: 03-5841-4524 fax: 03-5841-4555

e-mail: secre06@ogeochem.jp

郵便口座 00110-7-76406（名義人 日本有機地球化学会）

編集者 古宮正利（産業技術総合研究所）、早川和秀（滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター）

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>